

新潟市民病院



所在地

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463-7

TEL

025-281-5151

ホームページ

<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

標榜診療科目

血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓・リウマチ科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、小児科、新生児内科、産科、婦人科、救急科、総合診療内科、緩和ケア内科、感染症内科、腫瘍内科、乳腺外科、形成外科、麻酔科、ペインクリニック外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、脳卒中科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科口腔外科

病床数

676床

医師数

常勤：146人 非常勤：52.3人（2019年4月1日現在）

患者数

入院（H30年度）	年間延べ患者数	212,256人	1日平均患者数	581.5人
外来（H30年度）	年間延べ患者数	243,414人	1日平均患者数	997.6人

病院の特徴等

昭和48年（1973）10月、信濃川の東側（新潟市紫竹山）の地に市民の期待を受けて「新潟市民病院」として設立された新潟市を開設者とする自治体病院（公立病院）です。

平成19年11月、鳥屋野潟南部に新築移転いたしました。病院の理念は、「患者とともにある全人的医療」をめざすことで、ウイリアム・オスラーの言葉による「医学・医療は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」を基に、その信念を何時も全職員が忘れることなく毎日の業務に携わっています。

アピールポイント

- 救命救急、ならびに循環器病・脳卒中の両センターを併設しており、約20名のセンター所属医師が常勤して、専攻医の指導に当たります。3次救急を含む救急患者の豊富さがあります
- 地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、エイズ治療ブロック拠点病院の指定を受けています
- 医局において、1人1台の電子カルテあり、また、研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

施設等の紹介

- 職員図書室
- 職員食堂
- 売店
- 病児保育



内科専門研修プログラム：オスラーと共に学ぶ

■ 研修概要

本プログラムの目指すところは、以下の1)～4)となります。

- 1) 超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器専門性に偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 自己研鑽を継続する姿勢、常に最新の情報と技術を求め、標準的な医療を安全に提供できる能力を身に付け、内科専門医の認定を受けた後も市民に最善の医療を提供できる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を行い、地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のために、リサーチマインドを持ち、臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

上記を達成するため、期間3年コース（6名）と4年コース（2名）の2つがあります。3年コースは、新潟県新潟医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、同じ医療圏の新潟南病院、木戸病院、および新潟大学医歯学総合病院、さらに近隣の下越医療圏の新潟県立坂町病院を連携施設とし、研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間となります。

4年コースは、新潟県地域枠専攻医のみを対象とし、前期2年間の研修を連携施設である中越医療圏の厚生連長岡中央総合病院、または上越医療圏の厚生連上越総合病院で行い、後期2年間で当院で行います。

■ アピールポイント

- 3年コースの連携施設研修は2年後半から3年前半（1年間）を2施設で行い、うち1施設でサブスペシャリティ科の並行専攻が可能です。但し、サブスペシャリティ研修は原則3年のうち1年以内とします。
- 4年コースの連携施設（前期2年間）でもサブスペシャリティ科の並行専攻が可能です。但し、サブスペシャリティ研修は原則4年のうち1年以内とします。
- 指導医は選択したサブスペシャリティ科医師が担当するため、内科専門医とサブスペシャリティ科専門医の受験資格を得るまで、アドバイスを受けることができます。

■ 特色

プログラム終了までに、専門医受験資格に必要な登録条件を満たすことを優先します。この内科専攻に並行して、サブスペシャリティ科の専攻も行います（図 参照）。サブスペシャリティ科が決定している専攻医の指導医は、サブスペシャリティ科の医師が担当するため、サブスペシャリティ科を含めた、よりきめ細かい指導が可能となります。内科系サブスペシャリティ学会の多くが3年間以上の指定／関連教育期間の専攻とカリキュラム達成が必要条件になると思われます。3年コースでは、内科専門医試験は6年目、サブスペシャリティ科専門医試験は7年目に、4年コースでは、両方が7年目となります（サブスペシャリティ科専攻は、遅くとも4年目からの開始が必要です）。

指導医からのメッセージ

良いプログラム選択ができたからといって、それは必ずしも目的の成就を導くものではありません。“科学、そして医療するところ”を持ち、いかに情熱を失うことなく行動できるかに依ります。皆さんの可能性は計り知れず、私たちは皆さんの飛躍を大いに期待し、サポートします。

■ 連携施設の病院名

3年コース：新潟南病院 木戸病院 新潟県立坂町病院 新潟大学医歯学総合病院

4年コース：厚生連長岡中央総合病院 厚生連上越総合病院

研修期間 3年コース 4年コース

2021年度募集人数 8名

選考方法 書類・面接・筆記：英語（英和辞書持ち込み可）

プログラム責任者 副院長 五十嵐 修一

■ 研修コース

基本のコース

医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7
3年コース	初期研修 初期研修中の症例は80症例まで登録可能		研修認定 内科専門研修 ✓			専門医試験 	
	Subspecialty 研修					Subspecialty 研修	専門医試験

新潟県地域枠対象コース

医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7
4年コース	初期研修 初期研修中の症例は80症例まで登録可能		研修認定 内科専門研修 ✓			専門医試験 	専門医試験 
	Subspecialty 研修					Subspecialty 研修	専門医試験

■ 当院におけるサブスペシャリティ学会

日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本神経学会、日本リウマチ学会、日本感染症学会、日本消化器内視鏡学会

■ 上記以外の内科に関する施設認定等

日本甲状腺学会、日本高血圧学会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本透析医学会、日本脳卒中学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本脳神経血管内治療学会、日本不整脈心電学会

問い合わせ先

担当者 教育研修部長 和栗 暢生

TEL 025-281-5151 FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp ホームページ <http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

循環器内科専門研修コース

■ 研修概要

日本循環器学会専門医の受験資格には、内科専門医であること、日本循環器学会が指定する教育施設/教育関連施設で3年以上の研修歴とカリキュラム達成が必要です。当院で専攻期間は3年間となります（尚、延長する相当の理由がある場合は、4年間まで認めます）。

本コースでは、国内どこの医療施設に出向しても循環器内科医師として職務が勤まるだけの、広範かつ専門的な知識・技術・態度を身につけることができます。

基本的には学会が定めるカリキュラムに従って研修を積んでもらいます。循環器専門医としてのより高度な知識と技量を身に付ける必要があり、カリキュラムではその検査法・治療法と各疾患の病態・各論に分けて習得すべきレベルが設定されています。実践の最終的判断は、個別評価の後に指導医と科部長の相談で決定します。

■ アピールポイント

- 循環器専門医5名在籍し、指導しています。
- 日本心血管インターベンション学会と日本不整脈学会の認定教育施設であるため、それらの専門医研修が可能です。
- 当院の専攻期間終了後の進路として、新潟大学医学部循環器教室、および県外の循環器専門医療施設への紹介が可能です。

■ 特色

- 入院治療はチーム制で行いますので、先輩医師らのアドバイスを受けられます。
- 緊急心臓救急の対応するために、正規医師と同様に拘束番になりますが、いつでもチーム応援を得ることができます。
- 知識と技術の習得のために、以下のことを行います。
 - ◇ 検討会の参加：回診、循環器内科抄読会、シネカンファレンス、外科合同カンファレンス、心エコー検討会、内科抄読会、CPC
 - ◇ 教育研究活動の参加：学会報告、論文執筆、日本循環器学会・循環器関連学会教育セッション、地域循環器研究会
- 3年目終了後の進路：責任をもって科部長および指導医がアドバイスします。

指導医からのメッセージ

当院の基本方針の一つに、“重症・専門・救急を中心に、質の高い医療をめざします”があり、救急救命・循環器病・脳卒中センターを併設しています。多くの重症心血管病・心臓救急例の経験は、循環器医師としてのあなたのキャリア・アップの基盤となります。

プログラム責任者 循環器内科 高橋 和義

研修コース

①基本コース

1年目

- 循環器内科指導医とともに入院患者の診療にあたり、循環器学の基本的な知識と技術を修得します。
- 救急科および循環器内科医指導医の指導のもと救急外来での救急診療の基本的な知識と技術を修得します。
- 循環器疾患の診断と治療方針を的確に行えるよう、循環器内科指導医のもとに以下のことを行います。

- ① 心電図診断
- ② 心エコー（経胸壁および経食道心エコー：心エコー検討会に参加します）
- ③ ホルター心電図の解析診断
- ④ 心筋シンチグラム
- ⑤ 運動負荷心電図

上記検査を修得するため、外来および入院患者に検査を行います。心電図／心エコー／ホルターと心筋シンチ／運動負荷心電図を6ヶ月間ずつ研修します。

- ⑥ 心臓カテーテル（左心カテーテル、右心カテーテル、冠動脈造影法、心臓電気生理学的検査法）は術者として参加し、穿刺法とカテーテル操作技術を修得をします。そして、シネカンファレンスに参加します。
- 高度医療技術（PCI、PTA、PTMC、PTAV、BPA、高周波焼灼術、ペースメーカー・ICD・CRTD 植え込み術、IABP など）を用いた治療法のトレーニングを受けます。

2年目

1年目の基本的な技術と知識をもとに、チーム制の担当医としての立場で入院の診療を行います。

循環器検査に積極的に参加し、その技術修得とレベルアップに、指導医のもとで努力をしてもらいます。4ヵ月間の救急科または心臓血管外科研修が可能です。

3年目

チーム制の担当医の立場で、入院と救急診療を行い、高度な医療技術のさらなる修得に努めてもらいます。自らの研鑽のみならず、後輩研修医の指導を積極的に行ってもらいます。

②週間スケジュール

曜日	8:30	9:00	13:00	16:30	17:00
月曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 カテーテル検査、治療	心エコー検討会	
火曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査	病棟 心エコー トレッドミル	心血管外科合同検討会 循環器科抄読会	
水曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟	リハビリカンファランス	
木曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 心エコー	心エコー検討会	
金曜日	病棟・循環器センター 全体回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟 カテーテル検査、治療		

脳神経内科専門研修コース

■ 研修概要

【経験疾患群】

内科専攻医としての内科全般の研修とあわせ、脳神経内科の専門医をめざす実践的研修を行います。神経救急から難病診療まで、幅広くカバーでき、疾患領域は神経免疫性疾患、神経変性疾患、神経感染症、てんかん等の機能性疾患、末梢神経筋疾患、その他、脳神経内科全般にわたります。また、当院では脳神経内科医と脳神経外科医が協力して脳卒中科を設立し、専門的で機動力のある診療を行っていますが、脳神経内科専修プログラムのなかで脳卒中科をローテーションします。

【指導体制】

初年度は主に入院患者の主治医、担当医として患者を常時5～10人受持ち、問診、診察・神経局在診断、問題点の整理、病因診断・治療の実践などを学びます。他科入院患者や緊急外来患者のコンサルトにも対応し、実力をアップします。指導医はもとより、若手医師による屋根瓦式のバックアップが可能で、緩やかなグループ主治医性をとっています。2年目以降は、新患・再来の外来業務にも参加していただきます。

【脳神経内科医としてのスキルアップ】

脳神経内科診療に必要な神経救急、神経画像、電気生理、筋病理、高次機能、血管内治療への参加、リハビリについて学ぶ機会があります。当院は新潟市のみならず広く下越医療圏の基幹病院であり、周辺の病院やクリニックとの連携のため様々な研究会を通して情報交換を活発に行い地域医療の一端を担っています。症例を通じ、社会の中での神経学、神経疾患と倫理について、ともに考えます。

【学術活動】

臨床を通して深く学んだことについて、臨床病理検討会や研究会、学会発表や論文投稿を通して神経学の進歩に寄与する機会があります。

■ アピールポイント

- 多彩な神経疾患について高いレベルで診療できる
- 脳卒中科、脳外科等との院内連携、新潟大学脳研究所や他医療機関との協力体制が安定している
- 風通しがよく、自由度の高いカリキュラムをともに作る柔軟性がある

■ 特色

当科は、1973年の当院開設時から脳・神経・筋の専門科として地域の中心的役割を担ってきました。専門的知識に裏打ちされた豊富な実績があります。脳卒中科では、超急性期の脳血管内治療を行う体制が整っており、ダイナミックな医療現場に専攻医も携わることができます。当院には循環器・脳卒中センターがあり、脳卒中だけでなく、脳炎やけいれん重積などの神経救急の重症患者にも対応できるコ・メディカルスタッフがそろっています。また、神経難病診療においても長い実績があり、関連医療機関との密な連携により診断から慢性期までかかわることができます。

新潟という地は、全国屈指の長い歴史を持つ新潟大学脳研究所があることにより、全国から神経研究・臨床に携わる人材が常に集まっています。新潟に所縁のある方もそうでない方も、神経学を通して一人ひとりの医師が自分らしい仕事の在り方を追求しながら力を発揮することのできる地です。新潟大学脳研究所と新潟市民病院脳神経内科は、アカデミアと臨床実践と特性は異なりますが、人や情報の交流が盛んで、この地で学ぶことの恩恵は計り知れません。ここから若い医師の可能性は広がっていきます。

指導医からのメッセージ

当科では総合内科専門医、神経内科専門医としての技量を身に付けていただくことだけでなく、一人ひとりの医師が自分の使命感や興味を深め、充実した医師としての人生を送ることができるよう、最大限に応援します。神経内科専門医としての働き方は多様です。当科としても若い医師の発想を柔軟に取り入れ、成長していきたいと考えています。

■ 連携施設の病院名

新潟大学脳研究所神経内科学教室

プログラム責任者 脳神経内科 佐藤 晶

■ 研修コース

①基本コース

脳卒中科ローテートは半年～1年（要相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	脳神経内科 研修（後期トレーニング）									脳卒中科		
2年目	外来診療（1回/週程度）						新潟大学 神経内科					
	脳卒中科											
3年目	関連病院 内科						外来診療（1回/週程度）					
							脳神経内科（後期） トレーニング			症例総括		

①週間スケジュール

2年目以降は外来日（午前）があります。下記の外に、不定期に各種研究会、講演会、CPCなどがあります。

脳神経内科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時半 新入院紹介・ラウンド				
		隔週 昼 症例検討会		
14:30 病棟ラウンド	15:00 Neuro Radiology Conf	15:00 リハビリ カンファレンス		15:00 チャートラウンド
16:00 スタッフカンファ レンス（1回/月）	下越神経懇話会 （1回/月）	15:30 研修医 チャートラウンド	17:00 勉強会	

脳卒中科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:40 新入院紹介 全体ラウンド		8:40 新入院紹介	8:40 新入院紹介 全体ラウンド	
	15:00 Neuro Radiology Conf			9:30 リハビリラウンド

予定アンギオ、経食道心エコーあり

グループ主治医制であり、グループミーティング、グループ回診を行い情報共有する緊急当番体制、バックアップ体制あり
血栓回収など緊急手術時はなるべく経緯を共有する



腎臓・リウマチ科専門研修コース

■ 研修概要

内科専攻医としての内科全般の研修に加え、腎臓内科、リウマチ膠原病の専門医を目指す実践的な研修を行います。腎臓専門医は、腎臓病の発見から治療、さらにはその予防に関する保健・医療活動を通じて、腎臓病の予防、啓発活動の中心として活躍が期待されており、具体的に取り扱う領域として、1) 慢性腎臓病の診断・治療と腎代替療法への導入 2) 腎代替療法を受けている患者のマネジメント 3) 急性腎障害の治療 4) 高血圧、腎血管疾患の診断・治療 5) 水電解質、酸塩基平衡異常の診断・治療などが挙げられる。本コースでは、地域の基幹病院として紹介される多くの腎疾患、国内どこの医療機関でも腎臓内科医師として職務を遂行できる、専門的な知識、技術を習得することを目標としています。リウマチ専門医は、内科専門医としてかかりつけ医の役割を持つと同時に、リウマチ専門医の知識・技能を生かして、リウマチ性疾患の重症例や救急患者の診療を实践すること、患者の治療、合併症予防を含めた健康管理や生活指導を日常診療として提供すること、リウマチ性疾患を専門としないかかりつけ医と連携して、地域でのリウマチ性疾患の診療の向上に貢献することなどが求められます。数少ないリウマチ指導医の常勤する施設として、近隣より集まる稀少症例、重症症例の診療を行うなど、高いレベルの診療技術を習得できます。

■ アピールポイント

- 総合内科専門医3名、腎臓専門医2名、透析専門医2名、リウマチ専門医1名が在籍し、指導しています。
- 年間100例前後のバスキュラーアクセス関連手術、処置
- リウマチ膠原病疾患に対する、生物学的製剤の導入も積極的に行っています。

■ 特色

- 病院全体の方針に則り、チーム性で入院治療を行っており、先輩医師や指導医のアドバイスを適時受けられます。
- 国立大学法人として唯一の腎研究施設を持つ新潟大学との交流が盛んで、大学腎膠原病内科との合同検討会なども行っており、幅広い知識を習得できます。
- 当院での研修後に、大学腎膠原病内科への入局、新潟大学大学院への進学、県内医療機関での勤務など、科部長、指導医と相談のうえ決定していきます。

指導医からのメッセージ

腎臓は全身を映す鏡といわれています。そのため腎臓内科という分野は、慢性腎臓病だけではなく、膠原病や血管炎、糖尿病、血液疾患など種々の原因による急性腎障害、電解質異常、輸液、栄養管理と非常に幅広い分野を扱っています。また、さまざまな病態に対する体外循環治療（血漿交換、血漿吸着、エンドトキシン吸着など）も担当しています。腎臓の専門分野のみならず内科医としての総合力が問われる科です。ただ、現時点で皆さんが腎疾患・膠原病に関する知識がなくとも心配ありません。一例一例の症例をよく勉強していく中で、少しずつ基本的な知識が身についていきます。当科での研修により、腎疾患、膠原病疾患全般の診断治療を経験でき、長期療養に伴う精神的、社会的、経済的な問題にも触れ、全人的な医療の必要性を感じることが出来ます。皆さんも、私たちと一緒に腎臓の窓から全身をのぞいてみませんか。

研修コース

①基本コース

1年目

- 腎臓内科指導医、リウマチ指導医とともに、入院患者の診療にあたり、腎臓病、リウマチ膠原病内科学の基本的な知識と、技術を修得します。
- 腎臓病、透析症例、リウマチ膠原病症例の診断・治療が適切に行えるよう、下記の検査、治療等の修得を目指します。
 - ① 血液、尿所見の解釈
 - ② 水電解質、酸-塩基平衡の解釈
 - ③ 腎生検を含め糸球体腎炎の診断、鑑別、治療
 - ④ 腎不全の診断、治療
 - ⑤ 腎内分泌機能に関する検査、治療
 - ⑥ ステロイド治療、免疫抑制治療の方法
 - ⑦ 腎保護を目指した降圧療法
 - ⑧ 腎保護を意識した利尿薬の使用法
 - ⑨ 急性血液浄化療法（血液透析、血液吸着、血漿交換、血漿吸着等）
 - ⑩ バスキュラーアクセス設置（中心静脈カテーテル挿入、内シャント設置、人工血管移植術）
 - ⑪ 腹膜透析カテーテル移植術
 - ⑫ リウマチ、膠原病、血管炎疾患患者の診察
 - ⑬ 抗リウマチ薬の使用法
 - ⑭ 生物学的製剤の使用法
 - ⑮ 治療薬に関するリスクマネジメント

2年目

1年目に修得した基本的な知識と技術をもとに、チーム性の主担当医として入院の診療を行います。また、興味深い担当症例について、フォローアップする外来診察も経験します。他科または他院からのコンサルテーション業務にも対応できるように知識を深めていきます。

3年目

チーム性の主担当医の立場で、入院診療を行い、高度な医療技術の修得に努めてもらいます。同時に後輩専攻医の指導にも積極的に携わってもらいます。

②週間スケジュール

時間 曜日	8:30	9:00	11:00	12:30	13:30	16:30
月曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		二部透析開始	
火曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟総回診		フォローアップ外来 シャント手術など	
水曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		二部透析開始	
木曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	腎生検		腹膜透析外来 シャントPTAなど	症例カンファレンス、 抄読会
金曜日	病棟チーム回診	透析室業務 → ICU	病棟		シャント手術など	
土曜日 (当番医)		透析室業務 → ICU	病棟			

呼吸器内科専門研修コース

■ 研修概要

当院の臨床では、病棟業務・救急対応は指導医とマンツーマンで行います。患者さんを診て、スタッフと協働することにより、医師として成長することを目指します。また、症例報告から多数例のまとめまで、学会・研究会での発表、投稿を行い、論理的・学術的な考え方を学びます。学会・研究会への参加、治験・臨床研究への対応は積極的に行います。指導医が種々の分野で講義を行い、検討会では症例呈示の方法を学びます。

初期研修医・学生へ指導することで、自らも学びを深めます。

他専門科と協力して、研修期間内に各科の症例を経験できるよう配慮しますが、連携施設の臨床でも内科専門医取得にむけて症例を受け持ちます。

■ アピールポイント

- 指導医とマンツーマンで臨床経験をつみます。
- 学会・研究会へは科内の治験費で参加可能です。
- 休診日は交替で勤務し、月5日以上は完全休日がとれます。

■ 特色

当科には、年間1,000例以上が入院し、そのうち半数程度が緊急入院です。担当患者さんを診るだけで多くの経験をつめますが、余裕があれば、自分チーム担当以外の患者さんについて、画像・経過をフォローすれば臨床経験は格段に広がります。採血検査・画像検査などは救急対応が迅速で、各科への相談の敷居が低いことは特筆すべきところです。初期研修医・学生への指導機会が多いところも特徴的です。

指導医からのメッセージ

3次救急病院ならではの多彩な症例を経験し、200人もの医師と人脈を形成でき、一生役にたつことが多いと思います。大都会でもなく、田舎すぎず、海も山も近く、酒も魚もうまい新潟市で、QOLを維持しつつ皆さんと一緒に働けることを期待しています。

■ 連携施設の病院名

新潟県立坂町病院 木戸病院 新潟南病院 新潟大学医歯学総合病院 厚生連上越総合病院 厚生連長岡中央総合病院

プログラム責任者 呼吸器内科 伊藤 和彦

■ 研修コース

①基本コース

1年目	当院呼吸器内科で初期トレーニングをしながら、他科の症例を適宜主治医団に加わって経験する。
2年目	前半は同上 後半は連携施設1
3年目	前半は連携施設2 後半は当院呼吸器内科で専門研修（後期トレーニング）

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟
午後	気管支鏡	外来/病棟	外来/病棟	気管支鏡	外来/病棟
夕方		多職種会議	検討会	検討会	

消化器内科専門研修コース

■ 研修概要

基本的には内科専門医を取得するための内科全科の研修を行っているが、専門領域（サブスペシャリティ）希望により、消化器内科医として十分な症例数を入院主治医、再来外来、救急対応を通じて経験していただく。ルーチン検査（胃内視鏡・大腸内視鏡・超音波検査）を多数行うことにより基本手技を高水準・確実に身に着ける。消化器内科医に欠かせない緊急手技である内視鏡的消化管止血術、緊急胆道ドレナージ（内視鏡的・経皮的）を身に着ける。その他、高難易度治療である内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）、内視鏡的・経皮的胆膵IVR、経カテーテル的血管内治療まで豊富な症例数、経験豊富な指導医の元で経験できる。その中で各種学会発表等も多数行っていただく。

■ アピールポイント

- 癌から救急医療まで幅広く豊富な症例
- 内視鏡検査・治療からIVRまで幅広く高度な手技が多数行える
- 気さくで楽しい消化器内科スタッフ陣（もちろん熱い）

■ 特色

当院は新潟県随一の救急医療を提供する病院であるため、消化器内科への診療依頼は非常に多い。当科は腹部救急診療のプロフェッショナルになるための最短コースともいえる。また各種癌の先端治療手技から化学療法、緩和医療まで多くを学ぶことができることも特徴の一つである。

指導医からのメッセージ

指導医スタッフへ相談しやすい環境（症例ごとに完全バックアップ体制）を用意しています。当科はその充実した診療内容を国内外に多数発信しており、多数の経験を積むことと並行して学会・論文発表をしていただけます。楽しいツアーも含めて、充実の後期研修を保証します。



■ 連携施設の病院名

新潟大学消化器内科 新潟南病院 木戸病院 新潟県立坂町病院

プログラム責任者 消化器内科 和栗 暢生

■ 研修コース

①週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	大腸内視鏡	超音波	急患対応病棟	上部内視鏡	上部内視鏡
午後	肝生検血管撮影	ERCP関連	血管撮影病棟	外来（再来）病棟	大腸内視鏡
夕方			内視鏡検討会	病棟症例検討会・抄読会	

内分泌・代謝内科専門研修コース

■ 研修概要

新潟市民病院内分泌・代謝内科を研修の基軸に置き、新潟大学医歯学総合病院血液・内分泌代謝内科分野、新潟南病院内科、木戸病院糖尿病・内分泌内科、坂町病院内科など県内4つの連携施設と協力して研修を行います。実践的な医療を修学することによって、全人的な地域医療が行える内科専門医を育成します。

■ アピールポイント

- 多彩かつ豊富な症例を研修できる
- この上なく優しいスタッフと仕事できる
- 生涯の友になるのであろう仲間と出会える

■ 特色

新潟市中核病院として近隣の医療機関のみならず広範囲の医療圏を有し、急性期から慢性期の診療が行えます。糖尿病、甲状腺が診療疾患の8割を占めますが、内分泌・代謝異常についても十分な経験を積むことができます。特に糖尿病診療においては糖尿病医療学の概念に基づいたアプローチでより深く患者と関わりながら治療目的を達成します。甲状腺疾患は診断、内科的治療のみならず、PEITも積極的に取り組んでおりますので多くの手技習得ができます。

指導医からのメッセージ

急性期病院の性質上、急な糖代謝失調、周術期管理、甲状腺クリーゼ、電解質異常の症例が毎日のように新患が来ます。忙しさがある反面、知識、経験、臨床医としてのセンスを磨く機会に恵まれています。ぜひ、ご参加ください

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 新潟南病院 木戸病院 坂町病院

プログラム責任者 内分泌・代謝内科 宗田 聡

■ 研修コース

①基本コース

1年目		2年目		3年目	
初期 専攻科トレーニング	専攻科トレーニング	中期 専攻科トレーニング	連携施設1	連携施設2	後期 専攻科トレーニング
必要な他内科症例担当					他内科症例担当

②週間スケジュールの例

曜日	外来		緊急対応当番	糖尿病教室	甲状腺診療	検討会	その他
	午前	午後					
月		外来	当番制	担当		症例検討	第二月曜日DM チームミーティング
火			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
水			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
木	外来		当番制	担当	PEIT	耳鼻科合同 検討会	糖友会イベント (不定期)
金		外来	当番制	担当		症例検討	

小児科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目標とします。

■ アピールポイント

- ①豊富な症例数があるため小児科専門医としての十分な経験が積めます。
- ②NICU、救急外来、ICUの規模は大きく、新生児・救急医療・集中治療の研修に適しています。
- ③指導医が多く、熱意をもって指導しています。

■ 特色

当院の小児科は専門性の高いスタッフが多数おり、また救急・重症患者の診療経験が豊富なところに特色があります。小児科専門医の研修をする上では最適な環境にあります。専門領域の多くを新潟市民病院で研修しますが、一部の領域についてはさらに充実した研修が行えるように連携施設での研修を行っています。3年間で専門領域に偏りが無い総合医としての実力が十分つくプログラムとなっています。

指導医からのメッセージ

私達と一緒に新潟市民病院小児科のプログラムで専攻医をスタートしてみませんか？ 当院小児科スタッフが全力でサポートいたします。そして3年後に成長した姿を楽しみにしています。また小児科総合医としては疾患だけではありません。育児や健康も大事なテーマです。そして「こどものことは小児科医に聞け」と言われるくらい私達と一緒にこども漬けになりましょう。

■ 連携施設の病院名

新潟大学医歯学総合病院 新潟県立新発田病院 佐渡総合病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接・その他（筆記）

プログラム責任者 小児科 塚野 真也

■ 研修コース

①基本コース

- 専門研修1年目：新潟市民病院こども病棟で感染性疾患・内分泌代謝疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、総合周産期母子医療センター新生児部門で新生児疾患・先天異常疾患を研修します。
- 専門研修2年目：新潟大学医歯学総合病院で血液・腫瘍、膠原病・リウマチ性疾患、感染症コンサルテーションを6か月間研修します。新潟県立新発田病院では近年小児科医としての取り組みが重要視されている精神・心身医学を3か月間研修します。佐渡総合病院では予防接種、乳児検診など小児保健分野を含めた地域小児総合医療を3か月間研修し、小児の総合診療医としての力をつけます。
- 専門研修3年目：新潟市民病院にもどり引き続き研修します。将来のsubspecialtyを意識した研修も一部可能です。

②週間スケジュールの例

月	病棟業務、周産期合同カンファレンス（月2回）、症例検討会
火	抄読会、外来・病棟業務、総回診
水	病棟業務、ランチョンセミナー、ハンズオンセミナー
木	外来・病棟業務、CPC（月1回）、グランドラウンド（月1回）
金	病棟業務、研修ふりかえり（月1回）
土 日	合同勉強会（年3回）

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151 **FAX** 025-281-5187 **E-mail** kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/syouni_senmon.html

外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟市民病院を基幹施設として県内外9の連携施設と共に本研修プログラムが構成されます。専攻医の希望により2つのコースの選択が可能です。

1) 領域発展コース

基幹施設である新潟市民病院で2年間、連携施設で1年間の研修を行います。

2) 大学院コース

基幹施設である新潟市民病院で1年間、連携施設で1年間の研修の後に新潟大学大学院に進学します。

■ アピールポイント

- 1) 多数の症例が経験可能
- 2) 小外科から高難度症例までの多彩な症例が経験可能
- 3) 手術のみではなく、“Academic surgeon”を育成。

■ 特色

県内で最大の外科手術数の新潟市民病院を基幹施設としプログラム全体の年間手術数は約3,000例でHigh volume・High qualityな研修が可能です。本プログラムの目標は外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた全国レベルのTop Surgeonを育成することです。9の中核病院を連携施設としていますが専攻医の希望に沿って連携施設を決定します。手術（art）だけでなく学会発表・論文作成などの学術活動（science）も指導しますのでart and scienceのバランスがよくとれた外科医専門医を育成します。研修後半は外科サブスペシャリティ（消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺内分泌外科・小児外科）の希望に沿ったローテーションを行います。



指導医からのメッセージ

「鉄は熱いうちに打て！」外科手術手技・周術期管理能力は、多数の臨床経験で加速度的に向上します。また、学会発表・論文作成は多彩な症例経験の疑問点から生まれます。若いときの“手術のシャワーを浴びる”3年間の研修により外科医としてのしっかりとした基礎が出来上がり、次のサブスペシャリティ研修に繋がります。やる気満々の専攻医をお待ちしています。

■ 連携施設の病院名

鶴岡市立荘内病院 県立新発田病院 県立がんセンター新潟病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟南病院 新潟臨港病院
長岡赤十字病院 立川総合病院 県立中央病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 3名

選考方法 書類・面接・その他（筆記試験）

プログラム責任者 消化器外科 桑原 史郎

研修コース

①基本コース

【領域発展コース】



【大学院コース】



②週間スケジュールの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
8時				抄読会		
9時	回診	回診	回診	回診	回診	
10時	手術	手術	手術	手術	手術	
11時						
12時				CB		
13時						
14時		検査		検査		
15時						
16時		検討会		検討会		
17時						



その他参考情報

雇用・勤務形態については、http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.htmlを参照してください

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.html

整形外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟市民病院整形外科の研修では、全ての運動器疾患、外傷症例に対し、的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけることです。

患者さんに信頼される、安全で質の高い医療を提供できる整形外科医師を育成することを目標としています。

■ アピールポイント

- 整形外科各専門分野の指導医が所属し、広い範囲で多くの臨床経験を積むことができる。
- 全国有数の外傷症例数である、かつ整形外科各種慢性疾患の診療に携われる。
- 当院は34診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談出来る雰囲気がある。

■ 特色

当院は全国有数の救急搬送患者を受け入れ件数で（2017年の救急車搬入6,220件、ドクターカーを運用）、多様な運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となる。救命科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っており、この治療にチーム治療の一員として参加し、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学べる。

また重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能である。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けられる様に検討会、回診を連日行っている。

新潟大学と連携したプログラムであるため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く、最新知識を得ることが出来る。またプログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多く、年間120件以上、3年9か月間で500件を目標としている。

プログラム参加病院中3施設が新潟市中心部に位置しているため、研修中の転居が最小限ですむ。佐渡市、会津市の生活環境も快適で、新潟から佐渡までは高速船で1時間と比較的近い。

指導医からのメッセージ

当科では整形外科各専門分野に対応できる指導医が所属しており、指導医のコントロールの元に多くの臨床経験を積むことが出来ます。当院は3次救急病院であり、軽症から重症まで、必ず救命科医師および整形外科指導医のバックアップがある状況で専攻医が主役となり治療を進めていくことが可能です。当院は34診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談が出来る雰囲気があります。全国有数の外傷症例数で、整形外科各種慢性疾患の診療に携わることが出来ます。4年間の研修期間中はほとんど新潟市内での研修になります。見守られた安全な環境で研修をしてみませんか。

■ 連携施設の病院名

新潟大学病院 新潟中央病院 佐渡総合病院 会津中央病院（会津若松市）

研修期間 3.9年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 整形外科 瀬川 博之

■ 研修コース

①基本コース

年次	研修領域と研修期間	
1年目	新潟市民病院（外傷、上肢、下肢）	
2年目	新潟市民病院（脊椎）	新潟中央病院（外傷）
3年目	新潟大学病院（腫瘍、リウマチ、小児整形）	
4年目	佐渡総合（地域医療）	新潟市民（専門分野）

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:00-9:00	検討会	抄読会 勉強会	検討会	検討会	検討会
午前	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術
午後	多職種ミーティング 回診 検査	手術	手術 検査	手術 検査	手術

■ その他参考情報

2018年度 整形外科新患者数 2087例

2018年度 整形外科手術件数 1488件

手術内訳：外傷503件、脊椎388件、上肢・手180件、下肢306件、
リウマチ17件、スポーツ20件、小児44件、腫瘍30件

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/seikei_senmon.html

救急科専門研修プログラム

■ 研修概要

研修プログラムでは、急病や外傷の病態や重症度に応じた総合的判断に基づき、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを持った救急科専門医を養成します。特に多臓器の機能不全が重篤化する集中治療を要する病態においては中心的役割を担う医師を目指します。

さらに地域における救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する能力の修得も目指します。

新潟市民病院救急科は「救急外来（ER）」と「集中治療（ICU）」を診療の主な柱としています。豊富な症例で臨床経験を積み、Evidence-Based Medicine（EBM）を重視し、幅広い視野と知識を持ち適切な臨床判断のできる救急医の養成を目指します。

■ アピールポイント

- ER、ICU、プレホスピタル、災害医療、満遍なく研修可能です。
- 外傷のIVRも当科で行っています。
- 常にglobal standardを意識した診療をモットーとしています。

■ 特色

勤務体制はシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、産休・育休の取得ももちろん可能です。

指導医からのメッセージ

新潟市民病院の救急医療は、ジェネラリストである救急医による「横糸」、各専門科の「縦糸」で織りなすことで、質の高い救急医療を実践しています。一緒に新潟の救急医療を盛り上げましょう！！



■ 連携施設の病院名

新潟県立新発田病院 長岡赤十字病院 新潟県立中央病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 新潟大学医歯学総合病院 厚生連上越総合病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 救命救急・循環器病・脳卒中センター 廣瀬 保夫

■ 研修コース

①基本コース

新潟市民病院救命救急・循環器病・脳卒中センター（救急・集中治療12ヶ月）	
連携施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）	基幹施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）
地域僻地医療研修（3～6ヶ月）	希望、必要に応じて他科ローテーション研修

救急診療、集中治療、病院前救護・災害医療等は年次に拘らず弾力的に研修します。研修の順序、期間、連携施設の選択、内容については、専攻医の皆さんの希望を最大限に尊重します。

②週間スケジュールの例

時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30	ICU回診	抄読会 ICU回診	ICU回診	ICU回診	ICU回診	シフト制	
午前	ER・ICU・ドクターカー診療						
午後	総合診療内科 合同カンファ		デス カンファレンス				
17:00	トリアージ 検討会 (月1回)	Radiology conference (月1回)	プレホスピタル 検討会 (月1回)	M&Mカンファ レンス(月1回)	レジデント勉強 会(適宜開催)		
夜間	シフト制						

■ その他参考情報

勤務体制は日勤、夜勤、遅番のシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。当院は24時間体制で救急科医師が常駐しているため、オンとオフがしっかりしています。

当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、産休・育休の取得ももちろん可能です。

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/kyukyu_senmon.html

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である新潟市民病院を核としながら、新潟大学医歯学総合病院を初めとする専門研修連携施設群と協力して、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供するとともに、下記①～⑤を併せ持つ麻酔科専門医の育成を目指す。

- ① 高度な知識・優れた技術・優れた態度を備えている。
- ② 習得した知識・技術を全身管理に活用できる。
- ③ さまざまな疼痛を緩和できる。
- ④ 常にリサーチマインドを持ち、臨床上の疑問に対して自己学習ができる。
- ⑤ 自律的に学術的活動（学会参加、論文執筆等）ができる。

■ アピールポイント

- 新潟医療圏の三次救急病院。小児、心臓血管外科症例、救急症例が豊富。
- 市中病院でありながら、高難易度の手術や重篤な合併症を有する患者の手術も多数行われている。
- ペインクリニック外科においてペインクリニック研修が可能。

■ 特色

豊富な症例に裏付けられた実践力を養うことを第一に、新潟大学医歯学総合病院麻酔科の専門医研修プログラムと密接に連携し、各施設の指導医が総力を上げてオールラウンドな麻酔臨床医の育成を目指す。プログラム内では超音波ガイド下末梢神経ブロック、成人・小児の経食道心エコー、神経機能モニタリングの優秀な指導医の下での研修が可能。また、プログラム外では臨床・基礎研究も盛んに行われていることに加え、定期的に臨床経験・研究に関する発表の場があり、アカデミックな要求にも十分に答えられる研修となっている。

指導医からのメッセージ

新潟市民病院は、年間の麻酔科管理症例数が約4,800例と新潟県内で最も多い病院です。救命救急センター、循環器病・脳卒中センターおよび総合周産期母子医療センターを有しており、救急症例、心臓血管外科症例、脳外科症例、新生児症例も豊富であり、偏りのない研修が可能です。ロボット支援手術を初め、各科とも鏡視下手術が多いのも特徴です。忙しい病院ですが、その分やりがいを感じられると思います。皆様の応募をお待ちしています。



■ 連携施設の病院名

専門研修連携施設A：新潟大学医歯学総合病院 新潟県立新発田病院 新潟県立がんセンター新潟病院 済生会新潟第二病院
長岡中央総合病院

専門研修連携施設B：長岡赤十字病院 新潟県立中央病院 魚沼基幹病院

研修期間 4年

2021年度募集人数 1名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 麻酔科 西巻 浩伸

■ 研修コース

①基本コース

年次	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度前期	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院
初年度後期	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)
2年度前期	新潟大学	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (集中治療含む)
2年度後期	新潟大学	新潟大学 (ペイン重点)	新潟大学
3年度前期	長岡赤十字病院	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度前期	済生会新潟第二病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度後期	済生会新潟第二病院	県立中央病院 (ペイン)	新潟大学 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		
午後	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		

※病院当直業務はないが、夜間や休日の麻酔科拘束当番として、平日週1回、土・日・祝日のうち月2回を指導医とともに進行。

※2年度以降は各研修施設のカリキュラムによる

■ その他参考情報

専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。例えば、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション、集中治療を中心に学びたい者へのローテーションも可能である。また、学位の早期取得を目指すものに関しては、社会人大学院生として新潟大学大学院に入学し、麻酔科内で臨床麻酔に携わりながら、研究（基礎、臨床）を行うことも可能である。



問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ <http://www.hosp.niigata.niigata.jp>

総合診療専門医研修プログラム

■ 研修概要

機関施設は新潟市民病院であり、政令指定都市、県庁所在地である新潟市にある救命救急センターなどを併設する医療機関である。プライマリケアのみならず、高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能である。また都市型の医療を経験することが可能である。

連携施設は新潟県立津川病院であり、地域の小規模病院である。山間部での地域医療を、入院や外来の診療のみならず、訪問診療や地元の健康教育など、診療所の支援などを経験することが可能である。

■ アピールポイント

- 都市型の高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能
- 地域の小規模病院で、外来や入院での地域医療、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などを経験することが可能
- 新潟県内で総合診療を学ぶ場としては随一です

■ 特色

都市型の高度医療機関である新潟市民病院で総合診療と、その核となる内科各科、小児科、救急を中心に学ぶことが可能。重症患者、特殊な疾患をもつ患者、専門医療を必要とする患者の診療を経験する。

地域では、Common diseaseを中心とした、外来や入院での地域医療と、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などの、地域医療の経験が可能。

指導医からのメッセージ

病院や地域で、患者さんや家族の支えになりませんか？ あなたが医師を志した原点は何でしょうか？ 多くの患者や家族が、日常生活の中で、様々な健康問題で悩んでいます。あなたが、力になってあげることができます。総合診療に興味のある方は是非とも来てください。

■ 連携施設の病院名

新潟県立津川病院

研修期間 3年

2021年度募集人数 2名

選考方法 書類・面接・その他（小論文）

プログラム責任者 総合診療内科 矢部 正浩

■ 研修コース

①基本コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟市民病院						新潟市民病院					
	領域	内科						内科					
2年目	施設名	新潟市民病院		新潟市民病院			新潟県立津川病院						
	領域	小児科		救急			総診 I						
3年目	施設名	新潟県立津川病院						新潟市民病院					
	領域	総診 I						総診 II（その他を含む）					

②週間スケジュールの例

各科によって診療が異なります。

問い合わせ先

担当者 教育研修室長 桑原 史郎

TEL 025-281-5151

FAX 025-281-5187

E-mail kensyu@hosp.niigata.niigata.jp

ホームページ http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/soushin_senmon.html